

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を確実に図る授業の実践
- 主体的に学習に取り組み、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

北小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
前田 久美	校長 中村 誉 研修主任 阿部 さおり 教頭 高木 智 生徒指導主任 古川 昇 教務主任 齊藤 祥子

校長

中村 誉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算が身に付いている。課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙が少なく、長い文章を読み取ったり、知識などを関連付けたりすることに課題がある。	・基礎・基本の知識・技能を身に付け、主体的に学習に取り組むことができる。 ・身に付けた知識や技能を他教科の学習や生活の場面で活用することができる。 ・語彙数が増え、正確に読み取ったり、書いたりできる。	・モジュールや授業で、単元の復習や既習内容の発展・活用問題等を取り入れた課題を与え、継続して行う。 ・発問や課題設定を工夫することで、児童が興味をもって学習に取り組めるようにする。 ・語彙力を高めるため、読書の時間を増やしたり、国語辞典などを積極的に活用したりする。また、日記や作文の指導を行う。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員間での授業参観や研修、報告など、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を好み、意欲的に取り組める児童が多い。 ●思いや考えをよりよく相手に伝えたり、説明したり、新しい考えを作り出したりする力に課題がある。	・問題解決に向けて、自分の考えをもち、それを表現することができる。 ・自分の考えと相手の考えを比較するなど適切な言語活動により、よりよい考えを見つけ出すことができる。	・授業のめあてを明確に示し、問題解決のための時間を設定したり、ペア学習やグループ学習の機会を設定したりする。 ・児童が効果的に学習や発表ができるよう、タブレット端末やICT機器、ホワイトボードなどを活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に取り組むことができる。また、家庭学習の習慣が定着しつつある。 ●自分で課題を設定し、不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がみられる。	・学習のめあてをもとに、自ら課題を見つけることができる。 ・学習過程において、振り返りの時間を設定することで、達成感や自身の成長を実感することができる。 ・課題や家庭学習に対して主体的に取り組むことができる。	・体験活動を積極的に取り入れたり、生活の中から課題を見つけたりする場を設ける。 ・グループでの話し合い活動や表現の場を積極的に取り入れる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習や自主学習の仕方を具体的に提示していく。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

